

2020 年度  
事業報告書

(2020.4 - 2021.3)

公益財団法人都市活力研究所

# 目次

## 事業の状況

【公益事業1】産学官の交流連携を促進するとともに人材育成、教育研修を実施することで、産業を振興し、地域社会の活性化を図る事業…………… 1

### 1. ライフサイエンス分野における産業の振興

#### (1) 創薬シーズの育成

A. 創薬シーズ相談会（相談、助言）

#### (2) 創薬分野におけるコンピュータ利用の促進

A. AIコンソーシアム(LINC)（調査、資料収集）

B. インシリコ創薬支援事業（調査、資料収集）(講座、セミナー、育成)

#### (3) ライフサイエンス産業人材の育成

A. バイオ講座（講座、セミナー、育成）

B. 関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー（講座、セミナー、育成）

C. スマートウェルネス・オープンセミナー（講座、セミナー、育成）

D. バイオメディカル研究会（講座、セミナー、育成）

E. バイオ戦略トークセミナー（講座、セミナー、育成）

### 2. 起業家と起業マインドを育てるエコシステムの形成

#### (1) 起業家人材の育成

A. 起業関連セミナー（講座、セミナー、育成）

#### (2) 世界の先進事例の紹介と海外へ向けた情報発信

A. 国際会議「Hack Osaka」（講座、セミナー、育成）(表彰、コンクール)

【公益事業2】まちづくりを推進し、都市の活性化を図る事業…………… 11

### 1. 都心まちづくり等のあり方に関する調査研究

#### (1) UIIまちづくり研究会（調査、資料収集）

(新規テーマ) サステナブルなまちづくりに関する調査研究

(新規テーマ) 地域とまちづくりビジネスのマッチングに関する研究

(継続テーマ) コミュニティ活動を通じた地域文化資源発見

(継続テーマ) 公共空間アクティビティに関する情報収集

(新規テーマ) 地域課題の発見及び解決のための人材育成手法の研究

#### (2) UIIまちづくりフォーラム（講座、セミナー、育成）

(3) UII まちづくりレターの配信 (調査、資料収集)

2. 鉄道沿線まちづくりに関する調査研究

(1) 都心近接エリアにおける鉄道沿線まちづくりに関する研究 (調査、資料収集)

(2) 研究交流セミナー「これからの郊外、住まいと鉄道」 (講座、セミナー、育成)

3. まちの国際化に関する調査研究

(1) エリア MICE の推進に関する調査・研究 (調査、資料収集)

(2) 大阪のまちと国際化に関する調査・研究 (調査、資料収集)

【その他事業】産業とまちの活性化のために実施する公益事業をより有効なものとするための補助的事业………17

1. 創薬関連プロジェクトの推進支援

(1) (特非)バイオグリッドセンター関西の運営支援

(2) (一社)日本マイクロバイームコンソーシアムの運営支援

2. エリアマネジメント活動の支援

(1) 梅田地区における案内所業務への支援

(2) 大阪エリアマネジメント活性化会議の事務局支援

3. (公社)都市住宅学会関西支部の運営支援

4. 起業支援オフィス「GVH 大阪」の運営

5. 起業家と起業マインドを育てるエコシステムの形成の推進支援

# 事業の状況

【公益事業1】産学官の交流連携を促進するとともに人材育成、教育研修を実施することで、産業を振興し、地域社会の活性化を図る事業

## 1. ライフサイエンス分野における産業の振興

ライフサイエンス分野において、大学等での有望な技術や研究テーマである創薬シーズの育成支援、創薬分野へのコンピュータの利用促進を図るための事業推進、技術経営プログラムの提供、さらに国際的な事業連携の課題等の調査を通じて、産業の振興を図る。

### (1)創薬シーズの育成

#### A. 創薬シーズ相談会（相談、助言）

創薬シーズを保有し事業化への意欲を持つ大学等の研究者からの相談に対し、産業界のニーズに精通した製薬企業の研究企画部門担当者が相談委員となり、研究開発の方向性について助言を行う。2010年度に、大阪医薬品協会の協力を得て開始した。

11年目となる今年度は、シーズ募集を4回予定していた。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、実開催からオンライン開催に変更のうえ募集開始を9月としたため、シーズ募集は3回・相談会実施は9回実施した。相談委員は9月末時点で23社35名である。

また、大学から創薬シーズを収集するための広報活動は、2015年度から協力を得ている医療系産学連携ネットワーク協議会（medU-net）を通じて今年度も行うとともに、当法人で実施したセミナー参加者にもメール発信した。なお、案内チラシをBioJapan 2020（10月14～16日）で配布予定であったが、新型コロナウイルス感染防止の観点から参加を見合わせ未実施となった。

日程	シーズタイトル	シーズ相談者
10/7	新規作用機序のアルツハイマー病治療薬(アミロイドβタンパクの新規結合標的分子とその拮抗薬)	関西医科大学 内部監査室 室長 稲垣千代子
11/5	皮膚癌又はその前癌病変に対する新規治療薬	浜松医科大学 医学部細胞分子解剖学講座 特任教授 戸倉新樹
11/16	ヒアルロン酸を有効成分として含むアレルギー作用増強剤	川崎医科大学 呼吸器内科学 講師 加藤茂樹
12/7	顎下腺の萎縮抑制剤及び創傷治癒促進剤	山口大学 医学部歯科口腔外科 講師 原田耕志
1/27	肺癌治療のための抗癌剤の効果の検査法	日本医科大学 先端医学研究所 遺伝子制御学部門 助教 阿部芳憲
3/11	miR-140-3pを有効成分とする代謝機能亢進剤	川崎医科大学 公衆衛生学 教授 勝山博信
3/15	標的ポリペプチド分解誘導剤	国立精神・神経医療研究センター(NCNP) 神経研究所 疾病研究第4部 室長 株田智弘
3/22	AI創薬を加速する「隠れた結合部位(Cryptic Binding Sites)」を標的とした低分子創薬プラットフォーム技術	信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 助教 三宅 誠司

3/29	強皮症に対する新規治療薬の開発	京都大学大学院 医学研究科 循環器内科学 講師 芦田昇
------	-----------------	--------------------------------

## (2)創薬分野におけるコンピュータ利用の促進

### A. AI コンソーシアム(LINC) (調査、資料収集)

「ライフインテリジェンスコンソーシアム(LINC)」は、創薬分野における AI(人工知能)の活用を促進するため、京都大学、(国研)理化学研究所、(国研)医薬基盤・健康・栄養研究所をはじめ、製薬企業、IT 企業、大学とともに、2016 年度に立ち上げた。活動は今年度で 5 年にもわたるが、当初予定どおり 9 月末で開発活動を終了した。参加機関は、9 月末で 129 機関、登録者数は 623 人となった。終了するに際しては成果の報告として終了記念会をオンラインで実施した。また、5 年間の成果は、成果事例集としてとりまとめた。

#### ・ライフインテリジェンスコンソーシアム(LINC)終了記念会

日程	タイトル	講師	参加者
9/23	<p>第 1 部 オープニング LINC の概要、これまでの総括と今後の展望</p> <p>&lt;講演&gt; ライフサイエンスにおける AI 駆動型産業の未来 1 「産業構造 DX とライフ産業」 2 「AI を活用したヘルスケア・創薬の世界的潮流」 3 「AI 社会における日本の IT ビジネスのあり方」</p> <p>第 2 部 パネルディスカッション 「AI 駆動型製薬の実現に向けて」</p>	<p>LINC 代表 / 京都大学大学院 医学研究科 教授 奥野恭史</p> <p>日本経済団体連合会 産業技術本部 統括主幹 小川尚子 デロイトトーマツコンサルティング(合) 執行役員 柳本岳史</p> <p>(株)エクサウィザーズ 会長 春田真</p> <p>司会 LINC 副代表 / (国研)理化学研究所生命機能科学研究センター制御分子設計研究チーム チームリーダー 本間光貴</p> <p>[パネリスト] LINC 代表 / 京都大学大学院 医学研究科教授 奥野恭史 LINC 副代表 / (国研)医薬基盤・健康・栄養研究所 AI 健康・医薬研究センター長 水口賢司 LINC 参画メンバー EA ファーマ(株)創薬研究所 テーマ創出部 テーマ推進グループ 神野智之 塩野義製薬(株)創薬化学研究所 創薬先端化学部門 辻下英樹 (株)エクサウィザーズ 社長室 中嶋久士</p>	517 名

### B. インシリコ創薬支援事業 (講座、セミナー、育成)

(特非)バイオグリッドセンター関西と協力し、創薬分野におけるスーパーコンピュータの利用(インシリコ創薬)を推進するための研究講演会を、今年度は 1 回実施した。

なお、兵庫県立大学等と協力し、ライフサイエンス分野においても重要度をより増しつつある AI(人工知能)の理解を深めるため、AI 講座として講義編・実習編の計 12 回程度を実

施する計画としていたが、神戸リサーチコンプレックス協議会の主催事業となり、当法人での実施は中止となった。

・研究講演会(バイオグリッド研究会 2020 ―バイオコミュニティの形成に向けて―)

日程	タイトル	主催者等	参加者
12/12	バイオグリッド研究会 2020 ―バイオコミュニティの形成に向けて―	【主 催】(特非)バイオグリッドセンター関西 【共 催】当法人 【後 援】公益社団法人関西経済連合会 【協 力】(特非)日本バイオインフォマティクス学会 関西地域部会	75 名

【プログラム】

13:00-15:00 パネルディスカッション ―バイオコミュニティの形成に向けて―

コーディネーター:

(特非)バイオグリッドセンター関西理事長、大阪大学サイバーメディアセンター教授 下條真司

パネリスト(50 音順、敬称略):

(特非)バイオグリッドセンター関西理事、LINC 代表、京都大学大学院 医学研究科教授 奥野恭史

(特非)バイオグリッドセンター関西理事、塩野義製薬(株)シニアフェロー、

大阪大学 サイバーメディアセンター 招聘教授 坂田恒昭

内閣府 政策統括官、科学技術・イノベーション担当 参事官 森 幸子

(公社)関西経済連合会 ベンチャー・エコシステム委員会 副委員長、 阪急阪神不動産(株)代表取締役社長 諸富隆一

(3)ライフサイエンス産業人材の育成

A. バイオ講座 (講座、セミナー、育成)

・「ライフサイエンスアントレプレナー入門塾 2020」

ライフサイエンス分野において、事業開拓や起業に関心を持つ大学院生、大学・研究機関研究者、起業家を目指す若手研究者や企業の事業開発担当者を対象とした人材育成を目的とする実践講座で9年目となる。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンラインにて7月から12月の半年間毎月1回実施した。講義後に講師を交え参加者の意見交換の場を設け、互いの研究内容や課題などを共有し議論を行った。アンケート調査に基づき最近特に注目を集める「SDGs」の体験型のグループワークも行い、学生2名を含む10名が受講した。

日程	タイトル	講師
第1日 7/25	-オリエンテーション  ①勃興するバイオエコノミーと岐路に立つ日本 ②人と組織を動かすプレゼンテーションの極意	-神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 特命教授 森一郎 -公益財団法人都市活力研究所 主席研究員 味村和洋 ①神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 教授 山本一彦 ②(株)Smart Presen 代表取締役 新名史典
第2日 8/22	③英国式イノベーションと日本文化 ④デザイン思考入門	③(株)ケンブリッジコンサルタンツ 代表取締役社長 佐相宏尚 ④神戸大学 V.School 助教 祇園景子
第3日 9/19	⑤SDGsの世界感を理解する SDGs体験 ワークショップ ⑥ライフサイエンスでの起業:Nexuspiral 設立 での経験 ⑦ヘルスケア産業の支援事業とその課題	⑤(一社)インバウンド・ダイバーシティ協会 代表理事 今田大介 ⑥Nexuspiral(株) 代表取締役社長 増田直之 ⑦(株)COPEL コンサルティング 代表取締役 小島ゆかり ※講師3名とも過去の当講座を受講後、起業

第4日 10/17	⑧事業化を目指す研究者のための特許と契約 ⑨ライフサイエンス分野における産学連携によるイノベーション創出 ⑩実験科学者がベンチャーに魅せられる瞬間	⑧国立循環器病研究センター 産学連携本部長 浅野滋啓 ⑨神戸大学 産官学連携本部 副本部長 V.school 教授 坂井貴行 ⑩(株)ナティアス 代表取締役社長 片岡正典
第5日 11/21	⑪リーダーシップの本質と実践 ⑬医療機器開発の現状と課題 ⑫製薬産業におけるオープンイノベーション	⑪FORESIGHT & LINX(株) 代表取締役社長 能見貴人 ⑫神戸大学医学部附属病院臨床研究推進センター 特命准教授 保多隆裕 ⑬塩野義製薬(株) 事業開発部 オープンイノベーション 有岡伸悟
第6日 12/19	⑭総合的健康度の新規可視化法 「健康関数」を社会実装へ ⑮ベンチャーマインド 意見交換会	⑭理化学研究所 生命機能科学研究センター 健康・病態科学研究チーム 上級研究員 水野敬 ⑮(株)創晶 代表取締役社長 安達宏昭 -神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 特命教授 森一郎 -公益財団法人都市活力研究所 主席研究員 味村和洋

※8月には大阪府内(茨木市の彩都ライフサイエンスパーク)の研究機関での意見交換会を予定していたが新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

#### ・「イノベーションデザインマネジメント講座」

アイデアを事業に育てるまでのマネジメント力の向上を目的として起業に役立つ考え方や技能・知識を提供しグループワークを通して「デザイン思考」を実践的に学ぶ。全3日間のコースで神戸大学と共同主催でオンラインにて実施し、大学院生4名を含む14名が受講した。

日程	タイトル	講師	参加者
2/13	①シーズの適用範囲を拡げる	神戸大学 V.School 准教授 鶴田宏樹 助教 祇園景子	14名
3/6	②ソリューションを設計する		
3/20	③提供価値を検討する		

※文部科学省 EDGE-NEXT 東北大学コンソーシアム EARTH on EDGE の採択を受け実施

#### B. 関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー（講座、セミナー、育成）

ライフサイエンス分野で最先端の研究を先導する関西の研究者を招き、最新情報の提供及び参加者同士の交流の場を提供することを目的とし、2014年度から毎年4回実施している。主催は当法人と(特非)近畿バイオインダストリー振興会議、共催は(特非)バイオグリッドセンター関西、後援は関西医薬品協会である。今年度は全てオンラインで実施した。

日程	タイトル	講師	参加者
第24回 6/25	①脳波センシング技術とAI技術が生み出す医療・ヘルスケア創生～ブレインビッグデータを活用した予防・治療の開拓 ②血管内皮幹細胞を用いた新しい血管再生療法の開発	①大阪大学 総長補佐・栄誉教授 産業技術研究所 教授 関谷毅 ②大阪大学 微生物病研究所 情報伝達分野 教授 高倉伸幸	64名

第 25 回 9/29	①白血病を発症させる原因遺伝子の解明 ②新しい医薬品としてのラクダ科動物由来 VHH 抗体	①京都大学大学院 医学研究科腫瘍生物講座 准教授 牧島秀樹 ②産業技術総合研究所 バイオメディカル RI 研究副部門長 萩原義久	80 名
第 26 回 12/11	①K 値を用いた解析で分かった新型コロナウイルス感染拡大の特徴 ②新型コロナウイルスの性状とワクチン開発の現状	①大阪大学 核物理研究センター センター長 中野貴志 ②大阪大学 微生物病研究所 教授 松浦善治	79 名
第 27 回 3/2	①新型コロナウイルス等感染症検査用超高速リアルタイム PCR システムの開発 ②スポーツ医学からの健康研究・情報科学とバイオインダストリー:東京オリンピックと COVID-19 を迎えて	①産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 研究グループ長 永井秀典 ②大阪大学大学院 医学系研究科 健康スポーツ科学講座スポーツ医学教室 教授 中田研	74 名

### C. スマートウェルネス・オープンセミナー（講座、セミナー、育成）

健康・医療分野の産業振興に資する新たなビジネスモデルや新たなサービスの創出を目指して、専門家や有識者を招き、2013 年度より最新情報を提供するセミナーとして実施している。デジタルヘルスをテーマとして「デジタルヘルス市場の再考と今後を考える」を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実開催ができず中止した。

### D. バイオメディカル研究会（講座、セミナー、育成）

本研究会は、日本バイオインフォマティクス学会が主催する最先端分野の研究を一般向けに紹介するセミナーである。創薬・臨床応用を見据えた最先端の研究をテーマに知的交流の場を毎年2回実施している。当法人は本研究会の趣旨に賛同し共催団体として事務局を務め広報・運営等で活動を支援している。

日程	タイトル	講師	参加者
第 28 回 8/18	「医療経済と健康寿命のインフォマティクス」※オンライン開催 ①未来医療のための医療情報プラットフォームのコンセプト ②健康寿命の延伸を目指して -メタボ・フレイル- ③天然物、食用・薬用生物、漢方、薬膳、食品データベース KNApSAcK でデータマイニング ④医療ビッグデータ活用と人材育成への取り組み	①大阪大学大学院 医学系研究科 教授 松村泰志 ②(国研)医薬基盤・健康・栄養研究所 理事 阿部圭一 ③奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 教授 金谷重彦 ④京都大学大学院 医学研究科 准教授 鎌田真由美	100 名
第 29 回 12/4	「with コロナ時代の創薬」 ※オンライン開催 ①新型コロナウイルスの性状とワクチン開発の現状 ②バイオインフォマティクスを用いた感染症研究- ③新興・再興感染症ウイルスに対する薬剤開発の展望 ④多分野共同研究による新型コロナウイルス治療薬の探索	①大阪大学 微生物病研究所 教授 松浦善治 ②北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター 教授 伊藤公人 ③北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター シオノギ抗ウイルス薬研究部門 客員教授 佐藤彰彦 ④国立感染症研究所ウイルス第二部 主任研究官 渡士幸一	105 名



## E. バイオ戦略トークセミナー（講座、セミナー、育成）

今年度、内閣府は「バイオ戦略2020」を発表した。その趣旨に則り、当法人は、関西においてバイオファーストの発想を基軸として社会の課題解決を図るグローバルバイオコミュニティの創成に関わる準備活動を開始した。その広報の一環として NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議が主催するバイオ戦略に関する一般向けのセミナーに共催を行った。

日程	タイトル	講師	参加者
第1回 1/29	①講演「日本のアグリバイオ戦略2050年に向けて」  【フリートーク】 ・コーディネーター ② ・パネリスト ③	①農林水産省 大臣官房技術総括審議官 兼 農林水産技術会議 事務局長 菱沼義久 ②ヤンマーホールディングス(株) 技術本部イノベーションセンター イノベーション企画部 部長 鶴英明 ③東京農工大学 学長 千葉一裕	116名
第2回 3/29	①講演「いのち輝く未来社会の共創」 ②講演「バイオ戦略におけるヘルスケア分野での”ワンストップ”な AI 活用術」 【パネルディスカッション】 ・コーディネーター ③ ・パネリスト ①、②	①慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室 教授 宮田裕章 ②(株)エクサウィザーズ 代表取締役社長 石山 洸 ③塩野義製薬(株) デジタルインテリジェンス部長 小林博幸 研究企画部 部長 水川貴史	221名

## 2. 起業家と起業マインドを育てるエコシステムの形成

起業家や起業支援者が集まり、新事業がふ化する魅力ある環境の形成を通じて、大阪の産業の振興を図る。

### (1) 起業家人材の育成

#### A. 起業関連セミナー（講座、セミナー、育成）

起業家の輩出と起業家のさらなる成長を促進することを目指し、起業に関する知見を得たり、投資家等の支援者とのネットワークを広げるためのセミナー等を実施する。

今年度も、国内外のイノベーションの潮流を実感できるセミナーを実施中である。具体的には、起業を目指す人や起業家のための知識と人脈を広げるための勉強会や、起業家と支援者の接点作りのための交流会のプログラムとして、「おひるごはんセミナー」を本年7月よりオンラインにて、原則、毎週火曜日に実施中である。

なお、本年度は本プログラムの開催頻度と質を高めることが重要と判断したことから、これまで単発的に開催していた起業家の成長を促進するための集中講座については実施しない。

#### ・おひるごはんセミナー

※ファシリテーター GONENGO LLC XinSuzuki

日程	タイトル	講師	参加者
7/21	JETRO Global Connect! ～海外スタートアップの動きから見るオープンイノベーションの可能性～	(独)日本貿易振興機構(JETRO) イノベーション推進課 佐藤澄	27名

7/28	関西 8 大学オンラインピッチイベント 「#KSPGP」報告会	(講師/ファシリテーター) GONENGO LLC, XinSuzuki (ゲスト)大阪大学人間科学研究科 島藤杏奈	17名
8/04	with コロナ・アフターコロナ時代の就業規則	①特定社会保険労務士 豊岡正照 ②関西圏雇用労働相談センター 小西歩美	6名
8/18	OSAP9 期	有限責任監査法人トーマツ 松本修平	3名
8/25	知ってトクする商標権のちから	INPIT-KANSAI 総括知財戦略エキスパート 川島泰介	11名
9/01	ResorTech Okinawa	沖縄県大阪事務所 富澤正紀	11名
9/08	日本最大級の開発コンテスト「ヒーローズ・リーグ」	一般社団法人 MA 田中雅也	6名
9/15	JETRO Global Connect! ～EduTECH Philippines Virtual Summit 報告～	(独)日本貿易振興機構(ジェトロ) 新産業開発課 課長代理 中西瑞穂	18名
9/29	雇用・労務とその先にある助成金	①特定社会保険労務士 豊岡正照 ②関西圏雇用労働相談センター 小西歩美	3名
10/06	T-CEP	(株)Human Hub Japan 代表取締役 吉川正晃	13名
10/13	行政のスタートアップ支援 ～神戸市 x500 Startups の事例～	神戸市 医療・新産業本部新産業部新産業課 笠置淳信	21名
10/27	ワーケーション×スタートアップ	白浜町総務課企画政策係 大平幸宏	15名
11/10	スタートアップが 5G の技術検証や体験を行える施設「5G X LAB OSAKA」	一般社団法人 i-RooBO Network Forum 事務局長 松出晶子	8名
11/17	JETRO Global Connect! ～エストニア Latitude59 報告～	(独)日本貿易振興機構(JETRO) ジェトロイノベーション促進課 森友梨	12名
11/24	スタートアップの海外展開を支援する「大阪イノベーションハブ」	公益財団法人大阪産業局 Osaka Innovation Hub 津久井柚花	15名
12/1	起業前後の方を対象とした「スタートアップ・イニシヤルプログラム OSAKA」	(株)MJE 阪田大	11名
12/8	KOIN(Kyoto Open Innovation Network)京阪神のスタートアップ連携	(株)MIYACO 中馬一登	13名
12/15	JETRO Global Connect! ～深圳のスタートアップエコシステムについて～	(独)日本貿易振興機構(JETRO) 大阪本部 産業連携・対日投資推進課 張琳荷	9名
12/22	「大阪大学 イノベーターズ・クラブ」の取り組み	大阪大学産学共創本部特任准教授 松行輝昌	7名
1/5	スタートアップと大企業の共創を促進するピッチ イベント「Kansai Friendly Pitch 2021」	(株)MJE 阪田大	9名
1/12	アクセラレータープログラム 「Startupbootcamp Scale Osaka」	Rainmaking Innovation Japan LLC 吉田匡	10名
1/19	JETRO Global Connect! ～ドバイ「GITEX」からみえてきたハイブリッド型	(独)日本貿易振興機構(JETRO) ジェトロスタートアップ支援課 笹川佐季	12名

	イベントの今！～		
1/26	大阪オフィス開設!グローバル・ベンチャーキャピタル&アクセラレーター「Plug and Play Japan」	Plug and Play Japan(株) Plug and Play Osaka 市川はるか	9名
2/2	「Hack Osaka 2021」開催直前スペシャル	公益財団法人都市活力研究所 高野夏紀	9名
2/9	「Hack Osaka 2021」開催直前スペシャル	(独)日本貿易振興機構(JETRO) 大阪本部 産業連携・対日投資推進課 曾羽勇太	2名
2/16	Hack Osaka テックミーティングスペシャル!	公益財団法人大阪産業局 中川賀史	12名
3/2	AIDOR アクセラレーション ～テクノロジーを活用した製品・サービスの立上げを支援するプログラム～	公益財団法人大阪産業局ソフト産業プラザ TEQS 事業統括 手嶋耕平	3名
3/9	関西 10 大学オンラインピッチイベント 「#KSPGP 2021」報告会	GONENGO LLC XinSuzuki	8名
3/16	JETRO Global Connect! ～インド研究会と JAPAN DAY～	(独)日本貿易振興機構(JETRO) スタートアップ支援課 瀧幸乃	5名

#### ・新事業のために大学・産業界をつなぐ人材育成プログラム

大学は、新しい事業を起こすことを目指した独自の人材育成プログラムを、既に実施している。このプログラムは、各大学の得意とする学術分野に重点が置かれていることから、産業界が求めるニーズに対応しているとはいいきれない。そこで、経営論・組織論・技術論など幅広い分野を網羅した総合的なプログラムを構築して実施し、大学と産業界をつなぎ新しい事業を起こす人材を育成することが必要である。

一方で大学発ベンチャー企業は、ベンチャー企業ならではの特別な人材ニーズを持っており、常に経営人材の不足を感じている。そこで、求められる人材像を明らかにする一方、その供給方法の調査研究を行った。下期には、人材の見える化の為、まずはシニア専門人材に関する人材プール形成に向けた調査・企画を、再教育や大企業の人事制度等を中心に行った。

また、ベンチャー・企業家に対する実践的な教育活動を経済団体と連携して実施した。

日時	タイトル	内容	参加者
1/23	T-CEP2020 DEMODAY	大学で開発された技術を、その開発者と一緒にビジネスパーソンが共同して事業開発するアクティブラーニングプログラム	69名
2/15	ヘルスケアベンチャーのための発信力向上講座	公開ピッチコーチングと動画制作ワークショップを柱とする、ベンチャー向け講座	29名

#### ・大学が持つシーズの紹介セミナー

大阪の産業界の振興を図るためには、大学が持つ新産業創出につながるシーズを事業化していくことが必要であり、そのシーズを企業に紹介することによって、新しい事業を起こすことにつながる。

そこで下期は、関西の主要大学が持つシーズ・大学発ベンチャー企業の情報を収集し、それ産業界に対して紹介するセミナーを、経済団体や大学と連携して実施する。

日時	タイトル	内容	参加者
12/2	関経連×阪大オープンイノベーションフォーラム	大阪大学発ベンチャーキャピタル投資先と関経連会員企業との協業に向けたセミナー	150名
3/5	京都・関西発ライフサイエンスベンチャーMEETUP	京都及び関西のライフサイエンスベンチャーの発信と企業成長に向けたエコシステムの構築を目的としたセミナー	253名

なお、上記2事業は、経済産業省の「産学融合先導モデル拠点プログラム」に昨年9月に採択され、当法人が代表幹事機関を務める組織「関西イノベーションイニシアティブ(Kansai Innovation Initiative)」が推進するもののうちの、大阪の産業活性化につながるものである。

## (2)世界の先進事例の紹介と海外へ向けた情報発信

### A. 国際会議「Hack Osaka」(講座、セミナー、育成)(表彰、コンクール)

2013年度より、大阪・関西における起業マインドを醸成し、地域起業支援コミュニティを活性化するため、海外のイノベーションへの取組みの先進的事例を紹介するとともに、国内外の起業家を対象としたビジネスプランコンテストや交流促進のためのイベント等の企画、運営を、大阪市及び今年度より参画した(独)日本貿易振興機構(JETRO)大阪本部とともに行っている。

今年度は、テーマを「ニューノーマル時代に、大阪・関西は強みを生かし、世界に対してどのように貢献できるか」として、オンラインで2月18日に実施した。

日程	タイトル	講師	参加者
2/18	国際イノベーション会議 Hack Osaka 2021	<p>【主催】国際イノベーション会議 Hack Osaka 実行委員会(大阪市、当法人、(独)日本貿易振興機構(JETRO)大阪本部) 【共催】大阪イノベーションハブ、大阪外国企業誘致センター、一般財団法人大阪国際経済振興センター</p> <p>大阪市長 松井一郎 京都市長 門川大作 神戸市長 久元喜蔵 Action Community for Entrepreneurship Senior Manager, Risk Capital &amp; International Ang Yan Lin</p> <p>大阪大学大学院 医学系研究科臨床遺伝子治療学 寄付講座教授 森下竜一</p> <p>[パネリスト] Plug and Play Japan(株) Managing Partner &amp; CEO Phillip Vincent Rainmaking Innovation Japan(同) CEO Joshua Flannery 500 Startups Management Company, L.L.C. Japan Country Lead, Innovation &amp; Partnerships 大出歩美 [モデレーター] (株)taliki 代表取締役 中村多加</p>	960名 ※視聴 申込者
	①開会挨拶及び関係者メッセージ		
	②キーノートスピーチ Hub for Ventures and Research Institutes "Osaka Area"		
	③パネルディスカッション How to unlock Kansai, one of the largest markets in Japan		

	<p>④国際ナショナルピッチコンテスト Hack Award 2021</p> <p>⑤ローカルアップデート</p>	<p>[審査員]  (株)サンブリッジコーポレーション  代表取締役会長兼グループ代表 Allen Miner  Plug and Play Japan(株)  Managing Partner &amp; CEO Phillip Vincent  Rainmaking Innovation Japan(同)  CEO Joshua Flannery</p> <p>株式会社ニューラルポート  CEO 島藤安奈  副代表 島藤純奈  (株)国際電気通信基礎技術研究所  代表取締役専務・事業開発室長 鈴木博之  (株)Human Hub Japan  代表 吉川正晃</p>	
--	--	--	--

## 【公益事業2】まちづくりを推進し、都市の活性化を図る事業

### 1. 都心まちづくり等のあり方に関する調査研究

新しいまちづくりのあり方について産学官で議論する場をつくり、今後の新しい方向性の提言等により、新しいムーブメントの醸成に寄与する。

#### (1)UII まちづくり研究会（調査、資料収集）

大阪都心部の活性化に向けて、これからのまちづくりのあり方を研究する研究会を設置し調査研究を行う。

今年度は、大学との共同研究1件を含み計6件の研究を実施中で、テーマは次の通りである。

##### ○(新規テーマ) サステナブルなまちづくりに関する調査研究

産学官から、大阪都心及びその近郊の中長期的なあり方を考えるうえで鍵を握るメンバーを集め、情報・意見交換の場を設ける。そのなかで、まちづくりの最新動向に関する話題の提供を行い、サステナブルなまちづくりのための課題を抽出し、解決の方向性を見出す。

今年度は、学識経験者、公共団体等の中堅層、経済界などへの研究会参加の依頼を行っており、来年度の研究会の組成を目指している。

##### ○(新規テーマ) 地域とまちづくりビジネスのマッチングに関する研究

近年、まちづくりに資する新しいビジネスが生まれつつあるなか、地域の資源や課題を的確に把握してマッチングすること、及びそれをコーディネートする組織が求められるようになってきている。また、地域とプレイヤーをつなげることは、さらなるプレイヤーを創出させる効果も期待できるほか、地域住民のまちづくりに積極的に関わる意欲を増進することにつながる可能性がある。そのために、地域においてどのような調査を行い、いかにまちづくりを進めていくかについて、先進事例やケーススタディを通じてその手法を考案する。

今年度は、大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻加賀研究室と共同研究を実施しており、研究対象エリアの現状分析やまちづくりビジネスの事例収集を行った。

##### ○(継続テーマ) コミュニティ活動を通じた地域文化資源発見

従来の発想にとらわれない新しい視点での地域文化資源を定義・抽出・編集することにより、大阪の「キタ」エリアの魅力を語るストーリーを導き出すとともに、まちを使いこなす人材を育成することを目的に、今年度「キタ再発見の会」をオンラインにて4回実施した。

日程	タイトル	講師	参加者
9/14	第11回「福祉・防災NO.1を目指して! 菅北地域の過去今未来」	菅北地域副会長 西野仁 菅北地域副会長 瀬尾晃司 菅北地域福祉コーディネーター 板坂由美子 (一社)うめらく 代表理事 山田摩利子	19名
10/28	第12回「人財育成・発掘!本庄地域のこれからの挑戦」	本庄地域活動協議会会長 二口勇 本庄連合振興町会 宮里展弘 (一社)うめらく 代表理事 山田摩利子	10名

12/11	第13回「天神祭と生きる菅南地域の変遷」	菅南連合振興町会 会長 後藤孝一 菅南地域福祉コーディネーター 釜田貴美子 菅南地域活動協議会 会長 池田和夫 (一社)うめらく 代表理事 山田摩利子	13名
3/22	第14回「コンパクトシティ化で持続する堀川地域のまちづくり」	堀川地域連合振興町会 会長 久徳健三 堀川地域福祉コーディネーター 柳信良	15名

### ○(継続テーマ) 公共空間アクティビティに関する情報収集

公園、広場、道路、河川等の公共空間におけるアクティビティ促進に関するシーズを収集し、まちづくり関係者の用途に供するガイドブックの作成を目指す。

今年度は、昨年度同様(一社)公園からの健康づくりネットとの共同研究として調査を進めており、有識者・実務者へのヒアリング調査や国内外の事例収集を引き続き行っている。主なヒアリング内容については、下記の通りである。

日程	タイトル	ヒアリング先
10/26	いずみがおか広場の運営について	南海電気鉄道(株) 都市創造本部 泉北事業部 課長 今中未余子
1/20	EAT LOCAL KOBE について	(有) Lusie(神戸 R 不動産) 代表取締役 小泉寛明
3/30	Research on urban policy Interview with WUP	World Urban Parks CEO Neil McCarthy World Urban Parks アジア太平洋地区共同議長 Tim Geyer

### ○(継続テーマ) 地域課題の発見及び解決のための人材育成手法の研究

SDGsや Society5.0 といった社会やまちづくり変革のキーワードが浮上するなか、大阪府を中心に関西における社会環境の変化—少子高齢化、コミュニティ等の地域力の低下、防災、外国人受け入れ増加、地域活性化 等—に対応しうる人材を育成するための研究を実施している。

今年度は、当法人と(特非)Co.to.hana が事務局となり、産学官の有識者・実務者を招聘して昨年度組成した「地域課題の発見及び解決のための人材育成手法の検討に係る研究会」を3回実施した。研究会の会員9名。

#### ・地域課題の発見及び解決のための人材育成手法の検討に係る研究会

日程	タイトル	講師
7/8	“共進化(Co-evolution)”する環境—可能性を伸ばす研究教育— 人材育成講座の計画について	大阪大学 人間科学研究科 教授 三好恵真子 (特非)Co.to.hana 代表理事 西川亮
12/9	「まちづくり人材」とはそもそもなんであったか?~まちづくり平成史から考える~ 人材育成講座の状況について	京都市まちづくりアドバイザー 谷亮治 (特非)Co.to.hana 代表理事 西川亮

3/26	もっと幸せに生きる人を増やす 学びと共創の場づくりから考えるソーシャルデザイン 人材育成講座の実施結果について	学校法人 武庫川学院 武庫川女子大学 大学事務室統括部 中央キャンパス大学事務室(経営) 実践学習センター 時任啓佑 (特非)Co.to.hana 代表理事 西川亮
------	---	--

また、当法人と(特非)Co.to.hanaとの共同研究として、ソーシャルデザインについて系統的かつ実践的に学ぶ講座「Social Mirai Design」を試行的に開講することとし、全12回の講座を実施した。参加者 31名。

#### ・Social Mirai Design

日程	タイトル	講師
9/12	(1)ワークショップ	(特非)Co.to.hana 代表理事 西川亮 コミュニティデザイナー 丸毛幸太郎
9/19	(2)特別講座&対話型セッション	studio-L 代表 コミュニティデザイナー 社会福祉士 山崎亮
10/1	(3)特別講座&対話型セッション	choinaca 代表 わたしごと JAPAN 共同代表 矢口真紀
10/10	(4)特別講座&対話型セッション	(株)ミミクリデザイン CEO (株)DONGURI CCO 東京大学大学院情報学環 特任助教 安斎勇樹
10/22	(5)特別講座&対話型セッション	(株)まちづくりエイティブ代表取締役 アソシエーションデザインディレクター 寺井元一
10/31	(6)ワークショップ	(特非)Co.to.hana 代表理事 西川亮 コミュニティデザイナー 丸毛幸太郎
11/12	(7)特別講座&対話型セッション	ビジネスプロデューサー 小野裕之
11/21	(8)特別講座&対話型セッション	NOSIGNER 代表 デザインストラテジスト 慶應義塾大学 特別招聘准教授 太刀川英輔
12/3	(9)特別講座&対話型セッション	TSUGI 代表 ディレクター・デザイナー 新山直広
12/12	(10)特別講座&対話型セッション	エリア・イノベーション・アライアンス 代表理事 まちビジネス事業家 木下斉
1/9	(11)ワークショップ	(特非)Co.to.hana 代表理事 西川亮 コミュニティデザイナー 丸毛幸太郎
1/23	(12)プレゼン(発表会)	---

#### ○(新規テーマ) 産学融合による都心の活性化に関する研究

大阪・関西には新産業創出につながるシーズを持つ大学が多く存在するが、その立地は広域に分散している。このことが、大学と産業界の共同研究・開発を円滑に進める上の課題となっている。この課題解決策として、交通至便な都心において、大学と産業界



が融合する機能を持つことが挙げられ、大阪・都心の活性化からみてもその意義は大きい。

今期はコロナ禍の中、大学へのヒアリングなどの具体的な調査を行うことが難しく予備的な調査にとどまったが、次年度は、国内外における都心における産学融合についての現状についての知見を、各大学の先生方へのヒアリングや、既存の調査結果を整理し、そこに求められる役割、意義、機能に関する研究を行っているところである。また、本事業は次年度、公益事業1(産業振興分野)に統合して実施する。

## (2)UII まちづくりフォーラム (講座、セミナー、育成)

まちづくり分野の新たな施策・制度や動向を紹介するセミナーを、今年度は4回実施し、大阪府を中心に関西の都市が抱える課題や解決の方向性について、様々な視点から議論を深めた。

日時	タイトル	講師	参加者
9/16	うめきた周辺地域におけるクリエイティブ人材の発掘、連携及び誘引のためのデザインに関する調査報告会	大阪大学大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻 教授 加賀有津子 講師 武田裕之 当法人 三本松道昭	29名
11/10	地域資源を活かした宿泊業のカタチ～SEKAI HOTEL の取り組み	SEKAI HOTEL (株) 代表取締役 矢野浩一	65名
11/26	都市づくり鼎談～大阪・関西のまちのDNA・進化・そして未来へ	立命館大学 総合科学技術研究機構 上席研究員 村橋正武 関西学院大学 総合政策学部 教授 角野幸博 当法人顧問 岩本康男 都市計画家&プランナー 高梨日出夫 公益財団法人都市活力研究所 専務理事 鈴木裕二	83名
2/10	都市近郊の自然を活かしたワークプレイスの意義と構築について考える	関西大学社会学部 教授 松下慶太 (有) Lusie(神戸 R 不動産) 代表取締役 小泉寛明 (株)いきいきライフ阪急阪神 代表取締役・社長 上田均 神戸市経済観光局 経済政策課 六甲山活用担当課長 益谷佳幸	103名

## (3)UII まちづくりレターの配信 (調査、資料収集)

まちづくりに係わる様々な話題や動向を調査して、レター形式で情報を配信するもの。今年度は、4回配信した。

日時	タイトル
11/25	UIIまちづくりレター 特別編 大阪・関西の都市づくりにおける課題と解決の方向性を考える UIIまちづくり懇談会の記録
1/13	地域資源を活かした宿泊業のカタチ～SEKAI HOTEL の取り組み

3/29	都市近郊の自然を活かしたワークプレイスの意義と構築について考える
3/31	「TNN 豊中報道。2」の取り組みについて～徳丸進さんに聞く

## 2. 鉄道沿線まちづくりに関する調査研究

大都市近郊部の高齢化や人口減少等の課題に対応するため、鉄道の駅を中心としたコンパクトなまちづくりを目指し、鉄道沿線価値の維持・向上に向けた調査研究を行い、提言につなげる。

### (1) 都心近接エリアにおける鉄道沿線まちづくりに関する研究（調査、資料収集）

近未来(2040年)を念頭に置き、十三エリアにおいて目指すべきまちづくりの方向性を提案する手がかりとなる魅力や展望、課題を抽出し、開発の方向性について考察する。

昨年度に実施した、十三エリアの住民、来街者、関係者へのアンケート及びヒアリング調査をもとに、マーケティング・ブランディング分野の学識経験者・関西大学総合情報学部徳山教授を座長に、大阪市立大学吉田准教授、京都市立芸術大学藤本教授、近畿大学寺川准教授、神戸大学槻橋准教授をメンバーとする有識者による研究会を組成し、十三エリアの魅力を発見していくために各専門分野から議論を行い、十三エリアのブランディングの考察を行った。

### (2) 研究交流セミナー「これからの郊外、住まいと鉄道」（講座、セミナー、育成）

大都市圏の縁辺部に位置しながら鉄道ネットワークに支えられている郊外地域にスポットをあて、鉄道駅及び駅周辺の地域資源、高架下等を最大限に活かした住宅地再生・再編の方策について問題提起し議論するセミナーを、今年度は3回程度実施することを予定していたが、上期はコロナ禍の影響で開催に至っておらず、下期は、延期となった昨年度3月開催予定のセミナー1回を再開する予定であったが、関係先の事情により開催ができなかった。

なお、本調査研究は、2020年度にて終了し、2021年度から「1. 都心まちづくり等のあり方に関する調査研究」「(2)まちづくりフォーラム」内のテーマの一つとして継続的に検討していく。

## 3. まちの国際化に関する調査研究

大阪を中心に関西で増加する外国人観光客をはじめ、海外から来阪するビジネスマンや外国人居住者に着目し、地域を活性化するうえで欠かせない大阪のまちの課題を調査研究する。

### (1) エリア MICE の推進に関する調査・研究（調査、資料収集）

インバウンド観光のなかでも都心ビジネス地区ならではの集客要素として、MICE (Meeting Incentive Convention Exhibition) 誘致の取り組みは欠かせない。梅田地区を例にとり、関連事業者とともに窓口機能の有り方等について調査・研究を行い、得られた成果を大阪の各地域においても共有・活用できるよう公開する。

今年度は、大阪観光局の田中 MICE 政策統括官を研究会に招き講話と、コロナ禍終息後の将来に備えて意見交換を行った。

## (2)大阪のまちと国際化に関する調査・研究（調査、資料収集）

大阪府下においては来阪外国人観光客やビジネスマンに加え、外国人居住者も年々増加しており、今やまちづくりを考えるうえで国際化は重要なキーワードである。大阪のまちのあり方について、国際化に焦点を当て、大阪のまちの活性化に資する調査を実施する。

今年度は、昨年度のアンケート・ヒアリングをもとにして、大阪における外国人コミュニティをテーマにして、公益財団法人大阪国際交流センターにヒアリングを行い、現状と課題を伺った。

## 【その他事業】産業とまちの活性化のために実施する公益事業をより有効なものとするための補助的事業

### 1. 創薬関連プロジェクトの推進支援

大阪の地場産業である製薬業界の振興のため、非競争領域における創薬の基盤技術の普及や促進のための活動を支援する。現在は、コンピュータやヒト細菌叢(マイクロバイーム)の利用促進に関する活動を支援している。

#### (1)(特非)バイオグリッドセンター関西の運営支援

文部科学省ITプログラム「スーパーコンピュータネットワークの構築」(バイオグリッド・プロジェクト)として、2002年より2006年の5年間実施したプロジェクトを母体に、その研究成果の産業利用を目的に2004年に設立された。情報技術とバイオ、医療の融合分野における研究開発及び教育普及活動を行っている。

当法人は、2004年度設立時より事務局業務を受託し、今年度も運営を支援中である。

#### ○事務局運営

第17回総会(5月23日)並びに研究会をはじめ、バイオ研究者や製薬企業・ICT・バイオ関連企業関係者の交流事業やプロジェクトを運営した。

#### ○バイオグリッド HPCI プロジェクト(KBDD プロジェクト)

2012年度より、創薬にスーパーコンピュータを活用するプロジェクトとして活動している。参画者は、4/1現在、製薬企業19社、IT企業2社、京都大学、横浜市立大学、兵庫県立大学、大阪大学、(国研)産業技術総合研究所、(公財)神戸医療産業都市推進機構、千葉大学、摂南大学、(国研)理化学研究所である。活用しているスーパーコンピュータは、東京工業大学TSUBAME3.0(無料産業利用枠)である。当法人は事務局として運営を支援している。

#### (2)(一社)日本マイクロバイームコンソーシアムの運営支援

健康志向の高まりから製薬業界のみならず食品業界でもヒトと共生する微生物叢に注目が集まり、健康に資する機能性食品や化粧品の開発に期待が高まっている。同法人は国内32社が参画する企業コンソーシアムで、微生物叢の計測基盤整備を手始めとして研究開発を行っており、今年度、国のプロジェクトにおいて産業応用を見据えた微生物叢の「標準プロトコル」を完成させた。当法人は2017年の設立時より事務局を担い活動を支援している。

### 2. エリアマネジメント活動の支援

公益事業2において調査・研究したまちづくりのあり方の方策を実践に移すため、主に都心部におけるエリアマネジメント団体等の諸活動を支援している。

#### (1)梅田地区における案内所業務への支援

都心部における案内サービスのあり方を検討するとともに、各案内所で共通で利用できるツールの作成を通じて案内所業務への支援を行っている。

今年度は、全体的な情報の把握と整理が必要なもの(バスのりば案内、鉄道路線図、金融機関等)のマップと詳細情報リスト4回更新作成し、各案内所に配布した。

## (2)大阪エリアマネジメント活性化会議の事務局支援

大阪市と市内エリアマネジメント 8 団体で構成する会議で、大阪市内におけるエリアマネジメント活動の活性化に向けたアクションプランとガイドラインの策定を目指し、2016 年度に発足した。

今年度は公益性の創出に向けて、8団体が連携して取り組むことができる活動を行うとともに、大阪エリアマネジメント活性化ガイドラインの充実を図る。今年度は本会 2 回、部会 3 回の運営を支援した。

日程	内容
8/5	部会
9/4	第 9 回大阪エリアマネジメント活性化会議(本会)
12/1	部会
12/21	部会
3/25	第 10 回大阪エリアマネジメント活性化会議(本会)

## 3. (公社)都市住宅学会関西支部の運営支援

日本の都市住宅・居住学について、社会、経済、技術、文化等の横断的な領域にまたがる学際的な学会で、1992 年に設立された。関西支部においては、公的住宅団地、子育て環境、超高層住宅のあり方や、鉄道駅を中心としたコンパクトなまちづくりに関する調査研究を実施している。

当法人は、2015 年より事務局業務を受託し、今年度は総会 1 回・常議員会 8 回のほか、関連セミナー1 回の運営を支援した。

## 4. 起業支援オフィス「GVH 大阪」の運営

GVH 大阪は、スタートアップのエコシステムを大阪に創ることを目的に、2011 年 1 月に開設した起業支援オフィスである。開設当時は、当法人のオフィスに入居する(株)サンブリッジグローバルベンチャーズが管理し運営を行っていたが、2016 年度より当法人の事業と位置づけ、以降、施設利用会員である起業家に対し、オフィス環境の提供他、事業の成長への支援を行ってきた。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けるなか、事業の再編を行うこととし、2020 年 11 月 30 日をもって運営を終了した。なお、契約者数は、2020 年 4 月 1 日付で 43 法人 50 名であった。

## 5. 起業家と起業マインドを育てるエコシステムの形成の推進支援

起業家や起業支援者が集まり、新事業がふ化する魅力ある環境の形成を通じて、大阪の産業の振興を図る。なお、本事業は、経済産業省の「産学融合先導モデル拠点プログラム」に昨年 9 月に採択され、当法人が代表幹事機関を務める組織「関西イノベーションイニシアティブ(Kansai Innovation Initiative)」が推進するもののうちの、大阪の産業活性化の参考になるものである。

### (1)大学等が持つシーズの発掘と育成支援

大学や公的研究機関においては、各自が持つシーズを活用した研究開発プロジェクトが進められている。その中で、社会から強く求められるものなど社会課題解決を目的とした研究開発プロジェクトについては、早期に実現することが必要である。

大学や公的研究機関が持つシーズを発掘し事業化を支援すべく、設立間もない大学発ベンチ

ャー企業のシンポジウムを共同主催した。

日時	タイトル	内容	参加者数
12/10	ネイチャーギフト設立記念講演	京大発ベンチャーの株式会社ネイチャーギフトの事業及びセルロースナノファイバー(CNF)の技術、応用用途の紹介を行うセミナー	240名

## (2) 東南アジアの課題解決による大阪・関西のイノベーション活動の推進

イノベーション創出のためには、大学発ベンチャーやシーズ、産業界が連携し、大阪・関西の技術を活用し、国内外の課題解決に取り組むことが重要である。

そこで、急速に発展し課題が山積する東南アジア地域に注目し、現地の課題解決に役立つ大阪・関西の技術や産業資産とのマッチングを企画し、最終的に6件の個別面談に至った。

以上